

コンテンツ番号	b-1_0
対象	<input type="radio"/> 小1~小3 <input type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめって何？
目標	何らかの行為をし、相手の心や体をきずつけることはいじめであることを理解する。
シナリオ	
表示タイトル	友達をほめたら、嫌だったみたい。これっていじめなの？
ストーリー1	<p>いじめだと思っていない場合</p> <p>A「Bさんってとても背が高いよね。かっこいいな。」 B「…。別にかっこよくないよ。背が高いことを言うのは、やめてほしいな。なんだかいやなんだ。」 A「えー、背が高いことはいいことだよ。目立つし、かっこいいんだから。気にしない、気にしない。」 B「…。自分が気にしなければいいのかな。」 ナレ Aさんは、その後も、Bさんが背が高いことをよく話題にしています。</p>
ストーリー2	<p>いじめだと気づいた場合</p> <p>A「Bさんってとても背が高いよね。かっこいいな。」 B「…。別にかっこよくないよ。背が高いことを言うのは、やめてほしいな。なんだか嫌なんだ。」 A「えー、背が高いことはいいことだよ。目立つし、かっこいいんだから。嫌がらないでよ。」 B「でも…。とても嫌なんだ。」 A「そうだったんだ！」 A「ごめんね。相手の嫌がることをしたら、いじめだからね。背が高いって言うのはやめるね。」 B「ありがとう。わかってくれて嬉しいよ。」</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。初めのお話では、Aさんは嫌だと言うBさんの気持ちを気にしていません。後のお話では、Aさんは、Bさんの気持ちを知って、背が高いことについて言うのをやめました。</p> <p>はじめのお話で、笑って「気にしない」と言っているAさんはどんな気持ちだったのでしょうか？</p> <p>後のお話で、背が高いと言うのをやめたAさんは、どんなことを考えていたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう いじめとは何でしょうか？相手が傷ついていることに気づかず、相手にとって嫌なことを言ったりしたりしてしまうことも、いじめでしょうか？いじめをしないために気をつけることはありますか？</p> <p>【指導のポイント】 気づかずに相手がきずつくことをしてしまった経験について、話し合ってもよい。具体的な場面を思い起こしながら、自分に悪気がなくても、相手がいやだったらやめることが大切であることに気づかせたい。 ここでは、子どもたちの中にある様々な「いじめ」の判断基準が出てくる望ましい。そして、どんな場合も、相手がきずつく行為は、よくないことに気づかせたい。</p>
表示タイトル	いじめとは
学ぶ	<p>いじめとは何でしょうか？「いじめ防止対策推進法」といういじめを防ぐための法律では、『何らかの行動をして、相手の心や体が傷ついた場合、その行動はいじめである』と決められています。だから、相手が嫌がっていることに気づいていなくても、相手を傷つけてしまったら、それはいじめになります。</p> <p>いじめの経験は、その時に相手をつらい気持ちにするだけでなく、将来にわたってその人をきずつけ続けます。中には、心や体の健康を失ってしまう場合もあります。また、被害者だけでなく、加害者も、将来にわたってマイナスの影響を受けることがわかっています。例えば、人とうまく関わることができなくなったり、学校や仕事で成功しにくくなるリスクが高まります。つまり、いじめの影響は、被害者だけでなく加害者にとっても、深刻なのです。</p> <p>いじめをしないようにするためには、相手の立場に立って考えること、相手のつらさや大変さを思いやり、想像して試みるのが大切です。自分と相手は違う存在なので、たとえ、同じ状況で自分は平気でも、相手はそうではないことがあります。相手の気持ちがどうなのかと、想像し共感することが、いじめを防ぐために、とても大切です。</p> <p>誰かの心や体を傷つけてしまわないように、あなたはこれからどうしますか？具体的な行動で考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】 法律上のいじめの定義を繰り返し確認し、わざとではなくでも、軽微なことでも、相手をきずつけてしまう行為は「いじめ」であり、してはいけないことであるということ、十分に理解できるようにする。 そのため、相手がきずつくことかどうか、という判断を正しくする力を育てることが必要になる。 相手の気持ちを想像する、相手の立場に立って考えてみる、そもそも乱暴な言葉やきずつける言葉を使わない、からかい(「いじり」と言うこともある)はしない、いやなことがあったら、穏やかに率直に伝え合う、などの具体的な行動を、一人一人が考え実践することを支援したい。</p>

コンテンツ番号	b-1_1
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめをなくそう みんながやっていることは正しいことなのか
目標	みんながやっていることがいつも正しいとは限らないことを理解する。
	シナリオ
表示タイトル	なかまはずれがはじまった あなたならどうする？
ストーリー1	<p>自分もする場合</p> <p>ナレ 昼休みにみんなでサッカーをすることになりました。何人か集まって、作戦会議をしているようです。</p> <p>A「Dさんはへたくそだからパスを出すのをやめようよ。」</p> <p>B「うん、そうしよう。」</p> <p>ナレ みんなは、Dさんにパスを出しませんでした。</p>
ストーリー2	<p>自分ではない場合</p> <p>ナレ 昼休みにみんなでサッカーをすることになりました。何人か集まって、作戦会議をしているようです。</p> <p>A「Dさんはへたくそだからパスを出すのをやめようよ」</p> <p>B「うん、そうしよう」</p> <p>C「それはDさんがかわいそうだよ。」「自分はやらないよ。」</p> <p>ナレ Cさんは、Dさんにパスを出しました。</p>
考えよう	<p>二つのお話を見ましたね。初めのお話では、Cさんはみんなから言われて、Dさんにパスを出すのをやめました。後のお話では、Cさんは、みんなに言われたことを断ってDさんにパスを出しました。</p> <p>パスを出さなかったCさんは、どんな気持ちでしょうか？</p> <p>パスを出したCさんは、どんなことを考えているのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>このお話のように、みんながやっていることは、いつでも正しいことだと思いますか。正しいか正しくないかはどうやって判断すればよいのか、考えを話し合ってみましょう。</p>
	<p>【指導のポイント】</p> <p>大勢がやっていることが、必ずしも正しいとは限らないことに気づかせたい。いじめの定義(相手に心身の苦痛があつたらいじめである)を確認し、正しく判断するためには、いつも、この定義に戻ることを確認したい。</p>
表示タイトル	みんながしていても 正しいとはかぎらない
学ぶ	<p>友達や多くの人が行っていることが、いつも正しいとは限りません。なぜなら、みんながシンキングエラーを起こしていることもあるからです。</p> <p>「友達と言ったから、みんながしているから」という理由だけで、自分で考えずに同じことをしてしまうのはとても危険です。そのことで、だれかがつらい気持ちをしていたら、それはいじめになってしまいます。</p> <p>大切なことは、自分で正しいか正しくないか判断することです。誘われても、自分でよく考えて、何かおかしい、特に誰かがそのことで傷つく、と思ったらやらないことが大切です。</p> <p>判断に迷ったら、友だちや大人に相談しましょう。</p> <p>あなたが、同じような場面になったら、どうしますか？どんな行動をとりますか？</p> <p>考えてみて、できたら練習してみるといいですね。</p>
	<p>【指導のポイント】</p> <p>周りの人の考えに流されず、自分で判断することを評価したい。間違った誘いを断ることは、とても勇気がいることだということも十分考えさせ、その上で勇気を持って行動することの大切さを、具体的に考えさせたい。</p>

コンテンツ番号	b-1_2
対象	小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめをなくそう 相手が自分と同じとはかぎらない
目標	自分の感覚や気持ちと、相手の感覚や気持ちは違うこともあること、相手の気持ちを尊重することを知る。
	シナリオ
表示タイトル	相手の動作が遅いと感じたら あなたならどうする？
ストーリー1	責める場合 ナレ 授業中です。前から後ろへプリントを渡しています。 A「早くして。遅いよ。」 B「うん。あ！落としちゃった。」 A「何やってるの。もっと早くできるはずでしょ。」 B「そんなこと言われても...。」(泣き出す) A「てきぱきやらないからいけないんだよ。」
ストーリー2	責めない場合 ナレ 授業中です。前から後ろへプリントを渡しています。 A「早くして。遅いよ。」 B「慌ててやると、落としそうになるから嫌なんだ。」 A「そうか。じゃあ、あわてなくても大丈夫だよ。」 B「ありがとう。少しずつ早くできるようにするね。」
考えよう	二つのお話を見ましたね。初めのお話では、AさんはBさんが自分と同じように早くやらないことを責めていました。後のお話では、AさんはBさんを責めずに待っていました。 Aさんはどんな気持ちで、Bさんを責めたのでしょうか。 Bさんを責めずに待っていたときのAさんは、どんなことを考えたと思いますか？ 話し合ってみましょう AさんとBさんのように、自分と相手の感覚や気持ちが違うときは、どうすればいいのでしょうか。話し合ってみましょう。
	【指導のポイント】 第一に、同じ状況でも、自分と他の人が同じ感じ方や気持ちであるとは限らない、ということに気づかせたい。更に、相手とちがった場合に、自分を押し通すのではなく、相手の感じ方や気持ちを理解しようとする大切さを、考えることができるようにしたい。
表示タイトル	感じ方は人それぞれ
学ぶ	自分と、友だちの感じ方や考え方は同じとは限りません。また、どちらの方が正しい、ということもありません。 「自分の感じ方や気持ちを押し付けていい」、「相手が傷ついても自分に合わせるべきだ」というのは、シンキングエラーです。そして、その結果、誰かを傷つけてしまっはけません。 自分の感じ方や気持ちを押しつけるのではなく、相手の感じ方や気持ちを尊重しましょう。「尊重する」というのは、「こういう感じ方や気持ちもあるんだ」と理解して、無理に変えさせようとしないということです。自分の感じ方と相手の感じ方のどちらも大事です。少しずつ譲り合えるとよいですね。 あなたがもし、相手の感じ方や気持ちが自分と違ったとき、どうしますか？相手にどんな言葉を掛けますか？どんな行動をしますか？
	【指導のポイント】 相手を尊重する言葉のかけ方や、相手の気持ちに共感する行動を評価する。おしつけではない考え方のよさを感じさせたい。

コンテンツ番号	b-1_3
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめをなくそう やられたらやり返していいのか
目標	「仕返し」はいけないことを理解する。
シナリオ	
表示タイトル	相手がおしてきた あなたならどうする？
ストーリー1	<p>やり返す場合</p> <p>ナレ 全校集会のためにみんなで整列していますが、窮屈でうまく並べません。</p> <p>A「じゃまだよ。もっと下がって。」</p> <p>B「なにするんだよ。」</p> <p>A「押すなよ。」</p> <p>B「先にやったほうが悪い。」</p>
ストーリー2	<p>やり返さない場合</p> <p>ナレ 全校集会のためにみんなで整列していますが、窮屈でうまく並べません。</p> <p>A「じゃまだよ。もっと下がって。」</p> <p>B「押すのはやめて。」</p> <p>A「ご、ごめん。」</p> <p>B「みんな、ちょっと狭いみたいだから、もう少し広がってくれるかな」</p>
考えよう	<p>二つのお話を見ましたね。BさんはAさんに、せまいことを責められたうえに、体を強く押されてしまいました。初めのお話では、BさんはAさんの体を強く押し返しました。後のお話では、BさんはAさんに、言葉で伝えるだけで、押し返しませんでした。</p> <p>押し返したときのBさんはどんな気持ちだったのでしょうか？</p> <p>言葉で伝えたBさんはどんなことを考えていたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>いやなことをされた時に、やり返すことは正しいのでしょうか。やり返す以外により行動はないのでしょうか？話し合ってみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>やり返すことにより、よい結果にならないということ、自分の行為がいじめになってしまうかもしれないというリスクに気づかせたい。やはり行動を活用できるとよい。</p>
表示タイトル	いやなことを された時は
学ぶ	<p>どんな理由があっても人を傷つけてはいけません。例え、相手が先にやったからという理由でも、同じです。自分がやられて辛かったとしても、やり返したら、相手の心や体を傷つけることになってしまいます。相手が傷ついたら、それはいいです。それに、単にやり返すだけでは、問題を解決することはできません。</p> <p>では、このように責任がないことで責められたり、嫌なことをされたりした場合は、どうすればいいのでしょうか。我慢するしかないのでしょうか。</p> <p>いいえ、そうではありません。その場合は、やり返す行動ではなく、言葉で「やめてほしい」ということを落ち着いて伝えましょう。怒ったり、やり返したりするよりも、ずっとよく相手に伝わります。</p> <p>怖く感じたり、自分が落ち着いて伝えられそうにない状態なら、その場をはなれたり、大人に助けを求めるとよいです。</p> <p>やり返すことも我慢することもどちらも正しい対応ではありません。</p> <p>やはり行動をすることが大切です。</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>あなたがもし、Bさんと同じように嫌なことをされたら、どうしますか？考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>「やり返し」行動ではないもの、トラブルが収まる方向向かう行動を評価する。これまでに学んできた「やはり行動」を思い出させたい。</p> <p>「やられたこと」は、被害者として別件として扱ってもらえばよいことを教える。</p>

コンテンツ番号	v-4-1
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	友だちづきあい 怒りをコントロールしよう
目標	腹が立った時の怒りを鎮める方法を知る。
シナリオ	
表示タイトル	はらが立った あなたならどうする？
ストーリー1	<p>怒りをぶつける場合</p> <p>ナレ 休み時間にドッジボールをしていたらAさんのチームが負けてしまいました。A「Bさんばかりボールを投げてずるいよ！」「もうドッジボールなんて絶対しない！」A「みんなきらい！」</p> <p>ナレ Aさんは怒って行ってしまいました。</p>
ストーリー2	<p>怒りをコントロールする場合</p> <p>ナレ 休み時間にドッジボールをしていたらAさんのチームが負けてしまいました。A「もうちょっとで勝てたのに！」</p> <p>ナレ Aさんは、体育館の隅の方に歩いていきました。一人でぐるぐると歩いてから、みんなの所に戻ってきました。A「さっきは、怒ってごめんね。またドッジボールをやろうね。」B「うん、またやろう。」</p>
考えよう	<p>Aさんは、ドッジボールに負けて随分怒っていましたね。初めのお話では、Aさんはひどい言葉を言って、怒って行ってしまいました。後のお話では、Aさんは一人で体育館の隅を歩いた後、戻ってきて謝りました。</p> <p>初めのお話で、みんなにひどい言葉を言ったとき、Aさんはどんな気持ちだったのでしょうか？</p> <p>戻ってきて謝まったAさんは、どんなことを考えていたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>だれでも、すぐ腹が立つことはありますね。腹が立った時、どうすればいいのでしょうか。どのようにして気持ちを落ち着かせますか。考えを話し合ってみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>誰でも、とても腹が立つことがあります。その感情が悪いのではないことは理解させたい。教師の例なども示すとよい。そのうえで、怒りの感情をそのまま表すことは、よくない結果を生じさせてしまったり、他の人を傷つけることになったりすることに気がかせたい。具体的な気持ちの落ち着かせ方を考えることが重要である。</p>
表示タイトル	いかりをコントロールしよう
学ぶ	<p>だれでも腹が立つことがあります。怒りという感情を持つことは、別に悪いことではありません。だから、怒りの感情を持った時に、自分を責める必要はないのです。ただし、怒りの感情を、そのまま誰かにぶつけてしまうと、誰かの心や体を傷つけてしまうことになってしまうかもしれません。自分の怒りをコントロールすることが大切です。</p> <p>怒りの感情をコントロールする方法は、いくつかあります。</p> <p>自分が怒りを感じたとき、例えば、「心の中でゆっくり6秒数えてみる」「周りの景色をよく見て、心の中でつぶやく」「心の中でストップ！と言う」「深呼吸をする」「その場から離れて歩く」などです。怒りの原因になったことをいったんやめて、自分の好きなことをしてみるのもいいですね。</p> <p>怒りのコントロールができれば、自分のことをほめてください。それは、とても立派なことです。</p> <p>自分に合った怒りの感情を鎮める方法をいくつか知っておくようにしましょう。</p> <p>あなたは、どのように怒りをコントロールしますか。自分の選んだ怒りのコントロール方法を練習してみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>怒りの感情のコントロールの方法は、大きく分けて、体に働きかける方法と言葉を使う方法がある。それぞれ選択肢をたくさん共有して、自分にできそうなものを選びたい。その場で具体的ににやってみる(練習する)ことで、実際の場面でも使えるようにしていきたい。</p>

コンテンツ番号	v-4-2
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	友だちづきあい 困ったら助けを求めよう
目標	困ったときには、周りの友だちに助けを求めていいことを理解する。
シナリオ	
表示タイトル	消しゴムを忘れてしまった あなたならどうする？
ストーリー1	<p>助けを求めない場合</p> <p>ナレ「Aさんは、消しゴムを忘れたことに気づきました。」 A「どうしよう。次の時間はテストだ。消しゴムがないと困る。」 ナレ 隣のBさんの机の上には、消しゴムが2個ありました。 A「Bさん、貸してくれるかな。頼むのは恥ずかしいな。」 ナレ 結局Aさんは、消しゴムを借りることができず、テスト中に困ってしまいました。</p>
ストーリー2	<p>助けを求める場合</p> <p>ナレ Aさんは、消しゴムを忘れたことに気づきました。 A「どうしよう。次の時間はテストだ。消しゴムがないと困る。」 ナレ 隣のBさんの机の上には、消しゴムが2個ありました。 A「Bさん、貸してくれるかな。頼むのは恥ずかしいな。」(少し間)「でも、勇気を出して聞いてみよう。」 A「Bさん、消しゴムを貸してください。忘れて来てしまったんだ」 B「いいよ。2つ持っているから、1つ貸してあげる」</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。 Aさんは、消しゴムを忘れて困っていました。 初めのお話では、Bさんに消しゴムを貸してと助けを求めることができませんでした。後のお話では、勇気を出して消しゴムを借りました。 消しゴムを借りられないAさんはどんな気持ちだったのでしょうか？ 後のお話で、友達に「貸して」と言えたAさんは、どんなことを考えていたのでしょうか？ 話し合ってみましょう 今回は消しゴムを忘れたというお話でしたが、その他にも、誰にでも「困る」ことはあります。自分が困ったときに、周りの友達に助けを求めることは、良いことでしょうか。それとも、良くないことでしょうか。理由も考えて、話し合みましょう。</p> <p>【指導のポイント】 迷わずに助けを求めることができる子と、恥ずかしさや断られる不安から、なかなか助けを求められない子がいるであろう。恥ずかしい、不安という気持ちを否定するのではなく、そういう感じ方もあることを認めたい。そのうえで、自分が困っているときに、黙っていたり、迷っていたりするのではなく、助けを求めて良いことを、話し合うことができることよ。また、そもそも、忘れ物をすることが悪い、という考えも出るかもしれないが、誰でも、うっかりすることはあり、そのことを責めたり恥ずかしがったりするべきではないことも、確認したい。</p>
表示タイトル	こまったときは 助けをもとめよう
学ぶ	<p>自分が困っているときは、黙っているだけでは何も解決しません。友達や先生、家の人に、「助けて。今、こんなことで困っています。」と伝えてみましょう。</p> <p>もちろん、お願いしたときに断られることもあります。 それは、相手が悪いのではなく、何か都合がよくない理由があるからです。「わかった。ありがと。」と頼んだ相手にお礼の言葉を伝えることも大切です。 また、助けを求めたことが悪かったわけではありません。また別の人に助けを求めてみるのが大切です。</p> <p>もし、あなたが、誰かに助けを求められたときは、助けてあげましょう。もちろん無理にすべてこたえなければいけないわけではありませんが、できることはしてあげましょう。</p> <p>あなたが困ったとき、どのように助けを求めるか、練習してみましょう。声をかけられた人も、どのように答えるか考えて、練習してみましょう。</p> <p>【指導のポイント】 「助けを求める役」と「求められる役」を交互に演じることで、頼まれ方によって気持ちよく協力できることを気づかせる。また、助けてもらったときの安心感や感謝の気持ちを共有し合い、助けを求めることも、助けることも、どちらも大切なことであることを実感させたい。</p>

コンテンツ番号	v-4-3
対象	小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	友だちづきあい 間違っただ行動をしてしまったら
目標	自分に都合の悪いことでも正直でいることが大切であることを理解する。
シナリオ	
表示タイトル	人の物をさわっていたら見つかった あなたならどうする？
ストーリー1	うそをつく場合 ナレ AさんはBさんのキャラクター鉛筆が気になっています。 A「この鉛筆いいな。ちょっと触ってみよう。」 ナレ そこへBさんが戻ってきました。 B「何してるの？」 A「何もしていないよ。」 B「うそ。今この鉛筆さわっていたよね。」 A「さわっていないよ。」 B「うそだ！さわっていたよ。先生に言うからね。」
ストーリー2	正直に言う場合 ナレ AさんはBさんのキャラクター鉛筆が気になっています。 A「この鉛筆いいな。ちょっと触ってみよう。」 ナレ そこへBさんが戻ってきました。 B「何してるの？」 A「あっ、ごめん。この鉛筆いいなと思って。出したままだったから、つい、さわっちゃった。」 B「そうなんだ。言ってくれば貸してあげるよ。」 A「ありがとうございます！勝手に触ってしまって、本当にごめんね。」
考えよう	2つのお話を見ましたね。初めのお話では、Aさんは、Bさんの鉛筆に触っているところを見られて、嘘をつきました。後のお話では、Aさんは、触ってしまったことを正直に話しました。 はじめのお話では、嘘をついたAさんはどんな気持ちだったのでしょうか？ 後のお話で、正直に話しているAさんは、どんなことを考えていたのでしょうか？ 話し合ってみましょう やってはいけないことをしてしまって、誰かに気づかれたら、あなたはどのように感じますか？嘘をつかずに正直に話すためには、どうしたらいいのでしょうか？話し合ってみましょう。 【指導のポイント】 自分に都合が悪いことを正直に話すには、とてもゆっきがあること(緊張や怖さ、不安を感じるのは当然)で、だからこそ、ゆっきを出して正直になることが大切であることを考えさせたい。もし、その場でできなければ、後からでも正直にすべきであることを理解させたい。こうした経験が思い出せない場合は教師が具体例をあげてもよい。
表示タイトル	まちがった行動をしてしまったら
学ぶ	だれでも、人の物がうらやましかったり、自分のものにしたくなったりすることがあります。時には、実際に触ってしまったり、取ってしまったりすることがあるかもしれません。 でも、どんな理由があっても、人の持ち物を、勝手に触ったり取ったりしてはいけません。 人の物を触る、取る、以外にも、わざとではなくても、人を押ししたり叩いたりしてしまったりしたときなど、やってはいけないことをしてしまうことは、誰にでもあることです。このように、万が一、間違っただ行動をしてしまったときは、どうしたらいいのでしょうか。大事なことは、いけないことをしてしまっただと自分で認め、正直に相手に伝えて、謝ることです。そして、同じことを二度としないようにすることです。 もちろん、正直に言うことが怖かったり、相手が怒っているかもしれないと不安になったりすると思います。どうしても勇気が出ず、直接相手につたえることが難しい時は、先生や家の人など、周りの大人に相談してください。 もし、あなたが、Aさんのように、間違っただ行動をしてしまったら、どうしますか？正直に行動するために必要なことは何でしょうか？考えてみましょう。 【指導のポイント】 まちがった行動をとってしまうことは、だれにでもある。特に、まだ子供である児童生徒は、まちがいをしながら、反省し、やり直していく存在であると言える。まちがった行動を悔やむだけでなく、また、まちがいがなかったかのごまかすのでもなく、自分のまちがいを、正直に振り返り、迷惑をかけた相手にあやまり、二度と同じまちがいをしないようにするための努力が重要であることを、考えさせたい。大人は、児童生徒の間違いを責めるのではなく、いっしょに悔やみ、あやまり、努力を応援する姿勢を示したい。そのことによって、児童生徒は、自分のまちがいに正直に対応する勇気を得ることができる。

コンテンツ番号	v-4-4
対象	<p>小1~小3</p> <p>◎ 小4以上</p> <p>◎ 一般の児童生徒</p> <p>○ 加害リスクのある児童生徒</p> <p>○ 被害リスクのある児童生徒</p>
タイトル	友だちづきあい 自分と違うやり方や考えを受け入れる
目標	自分とちがう考えややり方を受け入れることは、相手を尊重し上手に関わっていくうえで重要であることを理解する。
	シナリオ
表示タイトル	意見がぶつかった あなたならどうする？
ストーリー1	<p>意見をゆずらない場合</p> <p>ナレ 学級活動の時間です。リレー大会の走る順番を決めています。</p> <p>A「はい。リレーのアンカーは1番速い人がいいです。」</p> <p>B「はい。それは反対です。一番速い人は最初に走る方がいいです。」</p> <p>A「アンカーはとても大事だから、アンカーは、1番速い人に決まっているよ。」</p> <p>B「そんなことは、決まっています。Aさん、勝手に決めないでください。」</p> <p>A「そんなことない。Bさんは、知らないからだ。アンカーは、1番速い人なんだよ！」</p> <p>ナレ 二人は、言い合いになってしまいました。</p>
ストーリー2	<p>相手の意見も聞いてみる場合</p> <p>ナレ 学級活動の時間です。リレー大会の走る順番を決めています。</p> <p>A「はい。リレーのアンカーは1番速い人がいいです。」</p> <p>B「はい。それは反対です。一番速い人は最初に走る方がいいです。」</p> <p>A「Bさん、それはなぜですか。」</p> <p>B「最初に差をつけたほうが、勝てると思うからです。」</p> <p>A「でも最後まで大事ですよ。」</p> <p>B「では、2番目に速い人がアンカーになるといいと思います。」</p> <p>A「なるほど。それで練習してみよう。」</p> <p>ナレ リレーの順番を工夫することができました。</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。初めのお話では、AさんとBさんは、考えを全く譲り合いませんでした。後のお話では、二人は考えを譲り合い、より良い意見にまとまりました。</p> <p>初めのお話で、怒っているAさんはどんな気持ちだったのでしょうか？</p> <p>後のお話では、Aさんは、Bさんと意見を交わしているときに、どんなことを考えていたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>自分の考えが正しいと思っているのに、だれからか違う意見を言われたら、あなたは どう思いますか？けんかではなく良い意見交換にするためには、どんな考え方で話し合えばよいでしょうか？考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>人から反対されれば、だれでもいい気持ちはしないことには、触れたい。その上で、けんかと話し合いは何がちがうのかを、十分考えさせたい。感情的にならないことや、おだやかに互いに意見を伝えあうこと、相手の考えをしっかりと聞くことなどの大切さについて、考えられるとよい。</p>
表示タイトル	ともだちと意見がちがったら
学ぶ	<p>友だちと考えや意見が異なった場合は、まず、お互いに自分の意見を丁寧につたえたり、相手の意見をしっかりと聞いたりすることが大切です。</p> <p>その上で、より良いやり方をするために、どんな工夫をすることができるか、更に意見を出し合うとよいでしょう。意見がまとまらないときは、いったん時間をおいて再度話し合うか、まわりの大人に助けをもとめることも大切です。</p> <p>話し合いをするときは、いろいろな考え、その良いところを認めようとする気持ちが大切です。何のために話し合っているのかという目的をしっかりと考え、意見を出し合って工夫していくという姿勢が重要です。自分の意見や考えを押しつけない、自分の考えにこだわりすぎたりしては、より良いやり方を見つけることができません。</p> <p>これから、相手と自分の意見が違ったときに、あなたは、どう考えますか？どんな言葉を相手につたえますか？考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>相手と自分の意見が違ったときには、「いろいろな考えがある」、「見方や立場が違えば、考えも違ってくるはず」、「自分だけが正しいとは限らない」などと考えられるとよい。相手に伝える言葉としては、「それもいい考え方だね」、「良いところを合わせてみよう」、「なるほど」、「そういう考え方もあるんだね」などが考えられる。大事なことは、何のために話し合っているのかという目的を共有することで、自分の意見を通すことが目的ではないということに気づくことができるようにしたい。</p>

コンテンツ番号	V-4-5
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	友だちづきあい だれをさそえばいいのか
目標	友だちを遊びに誘うときの、適切な方法について理解する。
	シナリオ
表示タイトル	サッカーをやりたい あなたならどうする？
ストーリー1	無理やりさそう場合 ナレ 昼休みです。Aさんはサッカーをしたいと思います。 ナレ 体育館では、Bさんたちがドッジボールをしていました。 A「ねえ、サッカーやろうよ。」B「今ドッジボールをしているんだよ。」 A「えー。サッカーがやりたいのにな。」
ストーリー2	一緒にできそうな子をさがす場合 ナレ 昼休みです。Aさんはサッカーをしたいと思います。 A「ねえ、サッカーやろうよ。」B「今ドッジボールをしているんだよ。」 A「わかったよ。他の子を誘ってみよう。」
考えよう	2つのお話を見ましたね。初めのお話では、Aさんはサッカーで遊ぶことを断られ怒ってしまいました。後のお話では、Aさんは断られた後に、他の子を誘うことにしました。 初めのお話で、怒っているAさんは、どんな気持ちでしょうか？ 後のお話で、他の子を誘うことにしたAさんは、どんなことを考えていたのでしょうか？ 話し合ってみましょう 昼休みや放課後、友達と一緒に遊びたいと思った時、どんなことに気を付けて友達を誘うと、一緒に遊べるでしょうか。話し合ってみましょう。 【指導のポイント】 まず「同じ遊びをやっている、あるいはやろうとしている子を誘う」ことに気づかせたい。さらに「その遊びが好きな子」「よくその遊びをしている子」も可能性が高いことや「一人でいる子」「暇そうな子」も付き合ってくれる可能性がある等の考えも引き出す。意見が出にくい場合はいくつか例示する。
表示タイトル	ともだちを さそうときは
学ぶ	休み時間や放課後、誰かと一緒に遊ぼうと思ったら、相手がやっている遊びに入れてもらうといいですね。もし、自分のしたい遊びがあったら、その遊びをやっている子を探してみてもいいですし、その遊びをよくやっている子を誘ってみるのもよいでしょう。 そのとき、一人でいる子やつまらなそうにしている子も、もししたらあなたに付き合ってくれるかもしれません。 もちろん、いつもうまくいくとは限りません。相手には相手の予定や都合があるからです。もし断られてもあきらめなないで、他の人を誘ってみたり、別の時に誘ってみたりしましょう。 昼休みは、あなたは何をして遊びますか？ 友達を誘うとしたら、誰を誘いますか？ 【指導のポイント】 ゲーム「遊びに誘おう」 ①小さなカードに自分のやりたい遊びを書く。 ②合図が鳴ったら、カードを見せずに、相手を見つけて遊びに誘う。 ③同じ遊びのカードを持っていたら、組になっていく。だんだんメンバーが増えていく。 ④だんだんまとまってきたら、同じ遊びの友だちを見つけれなかったら、自分の遊びを変えてもいい。もちろん、ひとりでも、自分のしたい遊びを変えなくてもいい。 ⑤最後に、遊びを発表して終わり。そのまま、遊びを始めてもいい。

コンテンツ番号	v-4-6
対象	小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input checked="" type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	友だちづきあい さそわれたら参加してみよう
目標	休み時間や放課後に声を掛けられたら、参加してみることが友だちづくりの第一歩であることを知る。
	シナリオ
表示タイトル	遊びにさそわれた あなたならどうする？
ストーリー1	<p>参加しない場合</p> <p>ナレ 昼休み、Aさんは何もすることがなく教室にいました。そこへBさんがやってきました。AさんとBさんは、これまで、ほとんど話したことがありません。</p> <p>B「Aさん、何してるの？」 A「べつに。」 B「じゃあいっしょに遊ぼうよ。」</p> <p>ナレ Aさんはうつむいてしまいました。 B「遊ばないの？じゃあいいよ。」</p> <p>ナレ 昼休みの間、Aさんはずっと教室にいました。 A「恥ずかしくて一緒に行きたいって言えなかった...。」</p>
ストーリー2	<p>参加する場合</p> <p>ナレ 昼休み、Aさんは何もすることがなく教室にいました。そこへBさんがやってきました。AさんとBさんは、これまで、ほとんど話したことがありません。</p> <p>B「Aさん、何してるの？」 A「べつに。」 B「じゃあいっしょに遊ぼうよ。」</p> <p>A「...うん。」「...何するの？」 B「外でサッカーをやってるから、入れてもらおうよ。」 A「うん。」</p> <p>B「おもしろかったね。」 A「またいっしょに遊ぼうね。」</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。はじめのお話では、Aさんは、Bさんにさそわれても、返事をしませんでした。後のお話では、誘いに乗って一緒に遊びました。</p> <p>はじめに返事をしなかったとき、Aさんはどんな気持ちだったのでしょうか？</p> <p>後のお話で、サッカーに参加したとき、Aさんは、どんなことを考えたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>あなたは、あまり話したことのない人から、話しかけられたり、誘われたりしたことはありますか？</p> <p>あなたがAさんだったら、どんな気持ちになりますか？誘いに乗って遊びに参加しますか？話し合ってみましょう。理由も考えましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>はじめて話す相手とは、だれでも多かれ少なかれ緊張するものである。そうした気持ちを持つことが悪いわけではないので、そうした経験をていねいに扱い、十分言葉にさせたい。その上で、勇気を出して参加してみたら楽しかった、という経験についても、共有できるようにしたい。</p>
表示タイトル	ともだちにさそわれたら
学ぶ	<p>知っている友だちから誘われたら、危ない遊びやよくない遊びでなかったら、誘いを受けて、参加してみるとよいですね。これは、友だちづくりの第一歩になります。もちろん、他の用事などがあつたら断って構いません。そのときは、理由を言ってから、「また、誘ってね。」と一言添えるといいですね。</p> <p>緊張したり、参加することに勇気が必要だったりすることもあります。そんなときは身近な大人、先生や家の人に相談しましょう。少しずつ、安心して関わられる友だちを増やし、いろいろな人との遊びに参加できるようになるとよいですね。</p> <p>もちろん、あまりやりたくないことをさそわれたら、断っても構いません。そのときは、たとえば「苦手なんだ」、「この遊びは好きじゃないから、ごめんね。」などと、理由を伝えられるといいですね。</p> <p>あなたは、どんな友だちと遊んでいますか？どんな遊びに参加していますか？もし、はじめての友だちや遊びに誘われたら、どんなふうに答えますか？考えてみましょう。上手な答え方を練習してみるのもよいですね。</p> <p>これから、相手と自分の意見が違ったときに、あなたは、どう考えますか？どんな言葉を相手に伝えますか？考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>誘いに上手に応えることは、大切なコミュニケーションスキルである。勇気がなくて遊びに参加できなかったり、逆に、いやな遊びを上手にことわることができなかったりする児童生徒も多いかもしれない。具体的に場面を設定して、適切な応え方について話し合ったり、考えたせりふを、ロールプレイで実際に練習してみるの、実際の場面で生かす有効な方法である。</p>

コンテンツ番号	vs-1-1
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1～小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input checked="" type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめられたとき 違いがあるのは当たり前
目標	体形、髪型などの見た目や、性別、文化の違いによっておこる差別では、被害者に落ち度がないことを理解する。
	シナリオ
表示タイトル	見た目や、性別、文化の違い あなたならどうする？
ストーリー1	<p>見た目の違いの場合</p> <p>A「Bさんって肌の色がちがうよね」「麦だから 近寄らないで。」 B「肌の色がちがっても、Aさんに迷惑をかけてない。」 B「自分はこの肌の色気に入っているよ。」</p>
ストーリー2	<p>性別の違いの場合</p> <p>A「女子なのに なんて野球クラブに入るの。」「ふつう 女子はやらないでしょ。」 B「女子だから野球をやらないなんて決まっていないよ。」 B「性別のちがいで趣味を楽しめないなんておかしいよ。」</p>
ストーリー3	<p>文化の違いの場合</p> <p>A「Bさんって、外国の人なんだね。」「あなたの国って、へんな習慣がたくさんあるよね。」 B「日本とちがう習慣だけれど、お父さんとお母さんが生まれた国の文化だから、自分を守るよ。」</p>
考えよう	<p>他の人と違うところがあった時、それは「違っている人」が悪いのでしょうか？ Bさんは、人と違うところがあっても、自分は悪くないと主張していました。あなただったら、自分の違いについて悪くないと言えますか？その理由も考えてみましょう。</p> <p>話し合ってみましょう 人と違うということは悪いのか、悪くないのか、話し合ってみましょう。具体的な例を挙げて考えるようにしましょう。また、それぞれの理由も話し合ってみましょう。</p> <p>【指導のポイント】 多様性を認めることは正しいことであり、違いを理由にした差別は間違っている。しかし、実際の生活の中で、子どもたちは、違いを理由とした差別の場面に多く接していると思われる。ここでは、そうした実際の場面を具体的に思い起こしながら、自分の中にある、差別的な考え、感情(シンキングエラー)に気づくことが重要である。</p>
表示タイトル	人とちがうところがあっても あなたは悪くない
学ぶ	<p>だれにでも、人と違うところがあるのは当たり前のことです。見た目、性別、国、文化、人種など、人にはいろいろな違いがあります。このような他の人と違っているところを、大切にすることは、当たり前のことです。</p> <p>それでも、人から「他の人と違っていること」を否定されることがあるかもしれませんが、それは差別と言って、絶対にしてはいけないことです。このように「他の人と違っていること」があるのは、当たり前であり、「違っていること」ではないことを、しっかりと心にとめてください。「他の人と違っていることは悪いことだ」、「それを理由にいじめられるのは仕方がないことだ」と考えることは、間違っていて、シンキングエラーと言えます。</p> <p>他の人との見た目、性別、文化、国籍、考え方、など様々な違いについて、自分を否定されるようなことを言われたりされたりしたら、まず、自分は悪くない、ということをしっかり心にとめてください。そして、できれば、相手の顔をしっかりと見て、落ち着いてはっきりと「やめてほしい」ことを伝えましょう。そして、その場から離れましょう。自分は傷ついたことを、先生や家の人など助けてくれる人に伝えましょう。</p> <p>大事なことなので繰り返しますが、決して忘れてはいけないことは「あなたは悪くない」ということ、「他の人との違いを理由に人を傷つけることは間違い」だということです。</p> <p>あなたが、他の人との違いを理由に、傷つけられそうになったり、実際に傷つけられたりしたらどうしますか？どんな行動をとりますか？考えてみて、できたら練習してみるといいですね。</p> <p>【指導のポイント】 「やめて」と言う、その場から去る、教師に助けをもとめるといった具体的な行動を確認する。そして、様々な違いを理由に差別されるようなことがあった場合、決して自分を責めないようにすることを、十分理解させることが重要である。</p>

コンテンツ番号	vs-1-2
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input checked="" type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめられたとき 自分の気持ちを伝えよう
目標	いやなことや傷つくことをする相手に対し、がまんしないで、自分の気持ちを伝えることが大切であることを理解する。
シナリオ	
表示タイトル	友達にいやなことをされた あなたならどうする？
ストーリー1	<p>がまんする場合</p> <p>B「おはよう！！」</p> <p>A「いたい・・・。」</p> <p>A「そんなに強く叩かなくてもいいのに。」</p> <p>B「今日もまた、おしゃれな髪型だね。」</p> <p>「みんな、Aの髪型を見て。」</p> <p>A「普通の髪型なのに、いつも言われて嫌だな。」</p> <p>「でも、Bは意地悪でしているわけじゃないから仕方がない。がまんしよう。」</p>
ストーリー2	<p>自分の気持ちを伝える場合</p> <p>B「おはよう！！」</p> <p>A「いたい・・・。」</p> <p>A「そんなに強く叩かなくてもいいのに。」</p> <p>B「今日もまた、おしゃれな髪型だね。」</p> <p>「みんな、Aの髪型を見て。」</p> <p>A「普通の髪型なのに、いつも言われて嫌だな。」</p> <p>A「Bさん、痛いから、叩くのはやめてね。髪型のことも、そんな風に言わないで。からかわれているみたいで、いやなんだ。」</p> <p>B「え、そうだったの。ごめんね。もうしないよ。」</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。初めのお話では、Aさんは、Bさんに叩かれたりからかわれても、我慢していました。後のお話では、Aさんは、Bさんに、嫌なことをされて辛いという気持ちを伝えました。</p> <p>初めのお話で、我慢しているAさんはどんな気持ちだったでしょうか？</p> <p>後のお話で、自分の気持ちを伝えたAさんは、どんなことを考えていたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>つらい、やってほしくないという自分の気持ちに、相手が気づいていないという経験はありますか？そんな時、あなたはどうしたらいいと思いますか？話し合ってみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>相手が自分の気持ちに気づかずに行ったことで、実は自分は傷ついた経験について、話し合ってもよい。具体的な場面を思い起こしながら、相手に悪気がなくても、いやだったらがまんしないで、率直に伝えることが大切であることに気づかせたい。</p>
表示タイトル	がまんしないで つたえよう
学ぶ	<p>相手に自分の気持ちを伝えることは大切です。自分は嫌だと思っても、相手がその気持ちに気づいていないことはよくある事です。我慢が続き、とてもつらくなってしまふ前に、自分のつらい気持ちを伝えるようにしましょう。その気持ちをわかってくれたら、嫌な行動がなくなるかもしれません。</p> <p>相手に自分の気持ちを伝える時は、はっきりと、穏やかに、伝えましょう。泣いたり怒鳴ったりして伝えると、相手が嫌な気持ちになり、逆効果かもしれません。</p> <p>怖かったり、心配だったりして、直接相手につたえられないときは、先生や家の人など、周りの大人に相談することも大切な方法です。我慢をしないで助けを求めましょう。</p> <p>友達がした行動がいやだなと感じたとき、どのような行動をとろうと思いますか？具体的な場面で考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>相手の行動について指摘することは、勇気がある。自分ががまんすればいい、少しのことで騒ぎ立てるのはよくない、と感じてしまう児童生徒がいることが考えられる。相手を責めるのではなく、率直に自分の感じていることや気持ちを伝えることは、大切なコミュニケーションスキルであることを理解させたい。</p> <p>「はっきりと」「おだやかに」「自分が感じていることを伝える」とよい。ただし、他の方法（「にげる」「先生に言う」）でも、肯定的に評価したい。「こわいから何もしない」「がまんする」という場合には、「その場から去る」「教師に助けをもとめる」などの具体的な方法を教えたい。具体的な場面を設定して、適切な伝え方について話し合ったり、考えたせりふをロールプレイで練習してみるの、実際の場面に生かす有効な方法である。</p>

コンテンツ番号	vs-1-3
対象	<input type="checkbox"/> 小1~小3 <input checked="" type="checkbox"/> 小4以上 <input type="checkbox"/> 一般の児童生徒 <input type="checkbox"/> 加害リスクのある児童生徒 <input checked="" type="checkbox"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめられたとき いじめられる自分が悪いの
目標	いじめられることははずかしいことではなく、被害者は悪くないことを理解する。
シナリオ	
表示タイトル	くつをかくされた あなたならどうする？
ストーリー1	<p>がまんする場合</p> <p>A「また、靴がない。」「隠されたんだ。」</p> <p>A「あの人たち、こっちを見て笑ってる…。」「仕方がない。一人で探そう。」</p> <p>先生 女「どうかしたの？」「元気がないみたいね。」</p> <p>A「何でもありません。」</p> <p>A「いじめられているなんて、恥ずかしくて誰にも言えないよ。」</p>
ストーリー2	<p>助けを求める場合</p> <p>A「また、靴がない。」「隠されたんだ。」</p> <p>A「あの人たち、こっちを見て笑ってる…。」「仕方がない。先生に言おう。」</p> <p>A「先生。」</p> <p>先生女「どうしたの？」</p> <p>A「靴がありません。」「隠されたみたいです。」</p> <p>先生「話してくれてありがとう。」「まずは一緒に靴を探しましょう。」</p>
考えよう	<p>Aさんは、いじめられています。はじめのお話では、Aさんは、誰にもそのことを話すことができませんでした。後のお話では、Aさんは先生に、いじめられていることを伝えました</p> <p>いじめられていることを話せないAさんは、どんな気持ちなのでしょう？</p> <p>先生に伝えた時のAさんは、どんなことを考えていたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>いじめられることは、はずかしいことでしょうか？話し合ってみましょう。理由も考えましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>いじめの被害者が、「はずかしい」「だれにも相談できない」と思ってしまう理由について、十分考えさせたい。多くの子どもに「いじめられる側にも原因がある」「いじめられることははずかしいこと」という考えがあるかもしれない。その認識に気づかせることができるとよい。「どんな理由があってもいじめてはいけないのか」という点で、話し合いができる、次のパートの学ぶがより効果的になる。</p>
表示タイトル	いじめられていい人など いない
学ぶ	<p>相手の心や体を傷つけることはいじめで、してはいけないことです。だから、いじめる人といじめられる人では、どんな場合でも、いじめる人が、まちがっています。</p> <p>ところが、いじめられると、「自分が悪いところがあるからいじめられるのだ」、「いじめられるなんて恥ずかしい」と思ってしまうことがあります。でも、それはまちがった考え、つまり、いじめ被害者のシンキングエラーです。</p> <p>自分を責めるのはやめましょう。たとえ、いじめられるきっかけになるようなことが、自分にあったとしても、だからと言っていじめられてもいい人など、決していません。もし、あなたがいじめられていたら、「自分は悪くない」と自分に言い聞かせましょう。そして、だれかに助けを求めましょう。</p> <p>あなたがもし、だれかからいじめられたら、どのように考えればいいのでしょうか？「自分は悪くない」と強く思うことができますか。想像して、練習してみましょう。</p> <p>【指導のポイント】被害者の多くが、助けをもとめることができない。理由として、「過去に助けをもとめたが、助けてもらえなかった」、「孤立していて、助けをもとめる人がいない」、「助けをもとめることははずかしいと感じている」ということがあると言われている。そこで、『どんな理由があっても、いじめられていい人はいない』、『いじめられていることははずかしいことではない』という点を、しっかりと理解させ、自分がいじめられたときにそのことを思い出すことができるようにすることが重要である。</p>

コンテンツ番号	vs-1-4
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input checked="" type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	いじめられたとき 勇気を出して助けをもとめよう
目標	いじめられたら助けをもとめることが大切であることを理解する。
シナリオ	
表示タイトル	仲間外れにされた あなたならどうする？
ストーリー1	<p>がまんする場合</p> <p>B「みんなでドッジボールしよう。」 C「いいね。」「やろう。」</p> <p>A「仲間に入れて」 B「だめ。下手だから。」</p> <p>ナレ Aさんはうつむいて黙ってしまいました。実は、Aさんが遊びに入れてもらえないのは今日だけではありません。もう何日も続いています。</p> <p>ナレ Aさんは今日も一人で休み時間を過ごしました</p>
ストーリー2	<p>助けを求める場合</p> <p>B「みんなでドッジボールしよう。」 C「いいね。」「やろう。」</p> <p>A「仲間に入れて」 B「だめ。下手だから。」</p> <p>ナレ Aさんはうつむいて黙ってしまいました。実は、Aさんが遊びに入れてもらえないのは今日だけではありません。もう何日も続いています。</p> <p>ナレ Aさんは、思い切って先生に話すことにしました。 A「先生、だれも遊びに入れてくれない。」 先生「それは つらかったね。」「よく話してくれたね。もう、大丈夫だよ。」</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。はじめのお話では、仲間外れにされているAさんは、だれにも助けを求めませんでした。後のお話では、先生に助けを求めました。</p> <p>はじめのお話で、助けを求めないAさんは、どんな気持ちだったのでしょうか？</p> <p>後のお話のAさんは、どんなことを考えて、先生に助けを求めたのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう Aさんのようにいじめられたら、どんな気持ちになるのでしょうか。もし、いじめられたら、どんな行動をとればよいのでしょうか？話し合ってみましょう。理由も考えましょう。</p> <p>【指導のポイント】 いじめられたときの気持ちを、十分考えさせ、ショックであったり、みじめであったりする気持ちを十分想像させたい。その上で、つらい気持ちを乗り越えて、具体的に助けをもとめる行動ができるかどうか、自分のこととしてしっかり考えることができるようにしたい。</p>
表示タイトル	いじめられたら 助けをもとめよう
学ぶ	<p>誰かに、仲間外れにされたり、イヤなことを言われたりされたりするのは、本当に辛くて悲しいことです。だれでも、いじめられたら、心が深く傷つきます。黙って我慢をしていると、自分でも気づかないうちに、心の傷が深くなっていき、健康でなくなってしまう。</p> <p>あなたが、もしだれかからいじめられて苦しい気持ちになったら、迷わずに、誰かに助けを求めてください。助けを求めることは、自分を救う大切な行動です。勇気のいることですが、必ずしてください。</p> <p>助けを求める人を具体的に決めておくことが重要です。先生や家の人、友だちや相談窓口など、相談できる人が何人かいるといいですね。1人の人に相談しうまいかなくても、諦めずに、また別の人に伝えることを忘れないでください。直接話せなくても、電話やメール、手紙でも構いません。自分が誰であるのかを忘れずに伝えましょう。</p> <p>もし、あなたがいじめられたら、誰に助けを求めますか？どのように伝えますか？具体的に決めましょう。助けを求める相手は、一人ではなく、複数決めておきましょう。</p> <p>【指導のポイント】 だれに助けをもとめるのか、もし、それでだめだったら次にだれに助けをもとめるのか具体的に考えてみるのが重要である。利用できる相談窓口を複数紹介するとよい。また、直接口頭で言えなくても、手紙、メール、電話などでもよいことを確認したい。</p>

コンテンツ番号	bs1_1
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input checked="" type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	シンキングエラー 間違いを認めて謝る
目標	相手を傷つけることをしてしまったときは、自分の間違いを認めて謝ることが良いことを理解する。
	シナリオ
表示タイトル	悪口を言ってしまった あなたならどうする？
ストーリー1	<p>あやまる場合</p> <p>先生「Aさんが泣いていたよ。」「あなたに悪口を言われたそうだけれど。」</p> <p>B「みんなが言っていたからつい言ってしまった。」「悪いことをしたな。」</p> <p>B「先生。Aさんにあやまってくるよ」</p> <p>B「Aさん。いやなことを言ってしまってごめんなさい。」</p>
ストーリー2	<p>あやまらない場合</p> <p>先生「Aさんが泣いていたよ。」「あなたに悪口を言われたそうだけれど。」</p> <p>B「本当のことを言っただけなのに。」「それに、みんなも言っている。」</p> <p>B「だれかが、言い始めたことをまねしただけだよ。」</p> <p>B「自分は悪くない。」</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。はじめのお話では、BさんはAさんに謝りました。あとのお話では、Bさんは「自分は悪くない」と思っています。</p> <p>謝ったBさんは、どんなことを考えたのでしょうか？</p> <p>あとのお話で、あやまらないBさんは、どんな気持ちでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう</p> <p>もし、あなたが誰かを傷つけるような間違った行動をしてしまったとき、間違いを認めて謝りますか。それとも認めませんか。話し合ってみましょう。理由も考えましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>どんな理由があっても、相手を意図的に傷つけてはいけな、ということに気づかせたい。また、自分の間違った行動に気づいたときに、自分の非を認めることはとても勇気がいるということも、十分に考えさせたい。そのうえで、非を認めて行動を改めることの大切さを理解させたい。</p>
表示タイトル	相手をきずつけてしまったら
学ぶ	<p>どんな理由があっても、だれかを傷つける権利はありません。今回の例は、言葉の暴力でしたが、それ以外でも、相手の心身を傷つけたら、それはいじめであると法律で決められています。</p> <p>ところが、私たちは、「相手が悪いからやってもいい」、「みんなやっていることだから謝らなくてもいい」、「自分が始めたわけではないから悪くない」というように考えてしまうことがあります。これらはまちがった考え、つまり「シンキングエラー」です。</p> <p>誰にでもシンキングエラーを起こしてしまう可能性があります。もしも自分のシンキングエラーに気づいたら、すぐに直していきましょう。とても勇気のいることですが自分たちが成長するために大切なことです。</p> <p>あなたが、同じような場面になったら、どうしますか？どんな行動をとりますか？</p> <p>考えてみて、できたら練習してみるといいですね。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>具体的な場面を想定して考えることで、非を認めることの大変さと、それでもなお、自分のシンキングエラーを変えることの大切さを実感し、行動化できるようにしたい。</p>

コンテンツ番号	bs1_2
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input checked="" type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	シンキングエラー 自分は絶対悪くない
目標	「自分は絶対悪くない」はシンキングエラーであることを理解する。
	シナリオ
表示タイトル	廊下でぶつかった あなたならどうする？
ストーリー1	<p>あやまらない場合</p> <p>ナレ Aさんは、友達としゃべりながら廊下を歩いていました。廊下いっぱい広がって歩いていたので、Bさんを追い越そうとして体がぶつかりました。</p> <p>B「いたい。」 A「じゃまだよ。」 教師男「Aさん、Bさん、どうしたの？」 A「自分は友達と歩いていただけなのに、」Bさんがろうかであつ立つていたので、ぶつかってしまったんだ。」自分は悪くないよ</p>
ストーリー2	<p>あやまる場合</p> <p>ナレ 「Aさんは、友達としゃべりながら廊下を歩いていました。廊下いっぱい広がって歩いていたので、Bさんを追い越そうとして体がぶつかりました。」</p> <p>B「いたい。」 A「あ。」、「、、、ごめんね。」 教師「Aさん、Bさん、どうしたの？」 A「ともだちとしゃべりながら歩いていて、Bさんにぶつかってしまいました。」自分が悪かったからあやまりました。」 A「Bさん、ごめんね」 B「うん」「大丈夫だよ」</p>
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。初めのお話では、Aさんは、Bさんにぶつかって「悪いのは自分じゃない」と怒っていました。後のお話では、Aさんは自分が悪かったと認めて、ぶつかったBさんにすぐに謝っていました。</p> <p>謝らなかったAさんはどんな気持ちでしょうか。</p> <p>後のお話で、謝ったAさんはどんなことを考えているのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう あなた自身、「自分は絶対に悪くない」と思うシンキングエラーはないでしょうか、話し合ってみましょう。どうしてシンキングエラーを起こすのか、理由も考えましょう。</p>
	【指導のポイント】 誰でも、前を歩いている人に対して、「速く歩いてほしい」、「どいてほしい」と思ってしまうこともあることに触れ、そう思ったときに、どのような行動をすべきかを考えさせたい。自分の非を認めず、自分の思うがままに行動するという具体的な行動の背後に、「自分のやりたいようにやってもいい」というシンキングエラーがあることに、気づかせたい。
表示タイトル	自分のシンキングエラーに気づこう
学ぶ	<p>自分がいつでも正しい、絶対に悪くないと考えるのは、間違っています。これはシンキングエラーです。誰でも、間違ってしまったら、思い通りにいかないことがあります。</p> <p>間違いや失敗の結果、誰かを傷つけてしまったら、すぐに認めてあやまればいいのです。どんな理由があっても、誰かを傷つける権利はありません。</p> <p>もし自分のシンキングエラーに気づいたら、すぐに直すことが大切です。自分の間違いを認めることは勇気がいりますが、成長するために大切なことです。</p> <p>あなた自身、絶対に自分は悪くないとシンキングエラーを起こしていることはありませんか。</p> <p>もし、そういうことがあったらすぐに直すことはできますか。シンキングエラーを直すことによって、あなたの具体的な行動は、どのように変わるでしょうか？考えてみましょう。</p>
	【指導のポイント】 学んだことを、自分の具体的な行動の変容までもっていくことが重要である。子どものよっては、学んだことを実際の自分の行動と結びつけることが難しい場合もある。できるだけ具体的な場面で考えてみること(ロールプレイや台詞にすることなど)が有効。

コンテンツ番号	bs1_3	
対象	<input type="radio"/> 小1～小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input checked="" type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒	
タイトル	シンキングエラー やりたくないことはやらなくていいのか	
目標	「やりたくないことはやらなくていい」は、シンキングエラーであることを理解することができる。	
	シナリオ	
表示タイトル	やりたくない係活動 あなたならどうする？	
ストーリー1	<p>やらない場合</p> <p>ナレ AとBは保健係です。昼休みには手洗い場をきれいにする仕事があります。 B「Aさん。保健係の仕事でしょう。」 A「遊ぶ時間がなくなるからやりたくないな。」 A「Bさんはその仕事すきだよ。やっておいて。」「わたしは保健係は本当はいやだったんだ。」 B「そうかもしれないけれど・・・。」</p>	
ストーリー2	<p>やる場合</p> <p>ナレ AとBは保健係です。昼休みには手洗い場をきれいにする仕事があります。 B「Aさん。保健係の仕事でしょう。」 A「遊ぶ時間がなくなるからやりたくないな。」 A「Bさんはその仕事すきだよ。やっておいて。」「わたしは保健係は本当はいやだったんだ。」 B「やりたくなくても これはAさんとわたしの仕事だよ。」「いっしょにやろうよ。」 A「そうだね。ごめんね。いっしょにやるよ。」</p>	
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。初めのお話では、Aさんは、仕事をBさんに頼んで遊びに行ってしまうました。次のお話では、AさんはBさんに謝って、一緒に仕事をすることにしました。</p> <p>仕事をしなかったときのAさんはどんな気持ちですか？</p> <p>謝って仕事をすることにしたときのAさんは、どんなことを考えているのでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう あなた自身、「やりたくないことはやらなくてもいい!」というようなシンキングエラーはないでしょうか、話し合ってみましょう。どうしてそのような考えなのか、理由も考えましょう。</p>	
	<p>【指導のポイント】</p> <p>誰でも、「やりたくない。」「人に任せてしまいたい。」と思うこともあることに触れ、そう思ったときに、どのような行動をすべきかを考えさせたい。 自分の思うがままに行動するという具体的な行動の背後に、「ルールや約束よりも自分の気持ちを優先してもいい」というシンキングエラーがあることに、気づかせたい。</p>	
表示タイトル	「自分さえよければいい」はシンキングエラー	
学ぶ	<p>相手の気持ちやルール、マナーを考えないで、自分の思い通りに行動していいと考えるのは、間違っています。これはシンキングエラーです。</p> <p>「やりたくないことはやらなくていい」と考えて、やらなければならないことをしなかったり、間違った行動したりしていると、他の人に迷惑をかけたり傷つけたりしてしまいます。それに、自分自身の貴重な経験の機会を逃してしまいます。</p> <p>もし自分のシンキングエラーに気づいたら、すぐに直すことが大切です。自分の間違いを認めることは勇気がいりますが、成長するために大切なことです。</p> <p>あなた自身のシンキングエラーを変えることはできますか。シンキングエラーを直すことによって、あなたの具体的な行動は、どのように変わってしょうか？考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】</p> <p>学んだことを、自分の具体的な行動の変容までもっていくことが重要である。子どものよっては、学んだことを実際の自分の行動と結びつけることが難しい場合もある。できるだけ具体的な場面で考えてみること(ロールプレイや台詞にすることなど)が有効。</p>	

コンテンツ番号	bs1_4	
対象	<input type="checkbox"/> 小1~小3 <input checked="" type="checkbox"/> 小4以上 <input type="checkbox"/> 一般の児童生徒 <input checked="" type="checkbox"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="checkbox"/> 被害リスクのある児童生徒	
タイトル	シンキングエラー 間違った行動をする人はいじめていいのか	
目標	間違った行動をする人への正しい対応方法を知る。	
	シナリオ	
表示タイトル	ルールを守らないともだち あなたならどうする？	
ストーリー1	<p>ルールを守らない人が悪い A「はいはいはい！その答えは〇〇です！」 先生「今はしずかに聞く時ですよ。」</p> <p>B「Aさんって、いつもうるさいよね。」「自分勝手はやめてほしいよね。」 C「みんなで、相手にするのやめよう。」 A「みんながつめたいな。」「何かほくがいけないことをしたのかな。」</p>	
ストーリー2	<p>正しいルールを教える A「はいはいはい！その答えは〇〇です！」 先生「今はしずかに聞く時ですよ。」</p> <p>B「Aさん。先生に当てられてから話すといいよ。」 C「他の人の意見を聞くことも大事だよ。」 A「そうだね。次から気をつけるよ。」 B「ドンマイ」C「ファイト！」</p>	
考えよう	<p>2つのお話を見ましたね。あなたは、どんなことを考えましたか？ Aさんは、クラスの授業のルールを守れていませんでした。初めのお話では、みんなから冷たくされ、Aさんはひとりぼっちになってしまいました。後のお話では、友達がどうすればいいか教えてくれましたね。 ひとりぼっちになったAさんはどんな気持ちでしょうか？ 後のお話で、どうしたらいいかを教えてもらったAさんはどんな気持ちになったでしょうか？</p> <p>話し合ってみましょう あなたは、間違った行動をした人を責める気持ちを持ったことはありませんか。また、間違った行動をしたんだから、誰かに責められたり傷つけられたりしても、仕方がないことだと思ったことはありませんか。間違った行動をする人に対して具体的にどうすればよいでしょうか。それぞれの理由も話し合ってみましょう。</p> <p>【指導のポイント】 相手の行動が間違っている場合、それを理由として、相手を責める感情を持つことは自然なことである。ただし、相手を傷つけるような方法で、相手の間違いを責めてしまうことは「いじめ」であるし、正しい対応方法ではない。この点を、十分に理解させる必要がある。 子どもたちは、実際の生活の中でそうした経験をしているはずなので、実際の場面を具体的に思い起こしながら、考えるようにさせたい。</p>	
表示タイトル	いじめではない かいいつけほうほうを考えよう	
学ぶ	<p>間違った行動をする人に対しても、相手の心身を傷つける方法で対応することは、いじめです。いじめはいかなる理由があってもいじめの人が悪いです。いじめられる人は悪くありません。</p> <p>もちろん、間違った行動をする人は、その行動を直したほうが良いです。ただし、「間違った行動をしているからいじめていい」というのはシンキングエラーです。</p> <p>いじめではない方法で、相手の行動を変えられるやり方を考えましょう。率直に伝えたり、相手の立場になって考えたりするとうまくいきやすいです。自分たちだけで解決できないときは、大人に助けを求めることも大切です。相手を傷つけないで、その人の問題を解決できるとしたら、それは素晴らしいことです。</p> <p>相手の行動が間違っているとき、どうすればいいと思いますか？いじめではない解決方法を考えてみましょう。</p> <p>【指導のポイント】 この場合のシンキングエラーは「間違った行動をしていらいじめてもいい」である。 相手の行動が間違っている場合、それを理由として、相手を責める感情を持つことは自然なことである。ただし、相手を傷つけるような方法で、相手の間違いを責めてしまうことは「いじめ」であるし、正しい対応方法ではない。実際の生活の中で、相手が間違った行動をしているときに、より良い対応方法をとることができれば、いじめという間違った行動を防ぐことができる。様々な正しい行動スキルを具体的に考えさせたい。ロールプレイは有効である。</p>	

コンテンツ番号	bs1_5
対象	<input checked="" type="radio"/> 小1~小3 <input checked="" type="radio"/> 小4以上 <input type="radio"/> 一般の児童生徒 <input checked="" type="radio"/> 加害リスクのある児童生徒 <input type="radio"/> 被害リスクのある児童生徒
タイトル	シンキングエラー 他の人の失敗を責めているのか
目標	シンキングエラーを起こさないために、自分より弱い立場の人の気持ちを考えることを理解する。
	シナリオ
表示タイトル	友だちが失敗した あなたならどうする？
ストーリー1	責める場合 ナレ 体育の授業中です。リレーで、Aさんが転んで、チームは負けてしまいました。 B「負けたのはAさんのせいだ。」「もっとちゃんと走ってよ。」 A「ごめん・・・。」 B「先生、チームを変えてください。もうAと一緒にチームは嫌です。」 A「・・・」
ストーリー2	責めない場合 ナレ 体育の授業中です。リレーで、Aさんが転んで、チームは負けてしまいました。 B「くやしいな！」 A「ごめん・・・。」 B「仕方ないよ。そんな時もあるよ。」 B「何か、うまくいく方法があると思うから、一緒に頑張ろう。」 A「ありがとう。精一杯、がんばるね。」
考えよう	2つのお話を見ましたね。 初めのお話では、BさんはAさんを責めていました。後のお話では、Bさんは、Aさんを責めずに、一緒に頑張ろうと励ましていました。 Aさんを責めたBさんはどんな気持ちだったのでしょうか？ Aさんを責めなかったBさんはどんなことを考えていたのでしょうか？ 話し合ってみましょう 誰かが失敗したために自分たちがうまくいかなかったときは悔しいですね。こういう時に、その人を責めると、その人が辛い気持ちになってしまいます。その人が悪い、だから、その人を傷つけてもいい、というのは、シンキングエラーです。では、そんな風に、誰かのせいで失敗したときは、どうするのが良いでしょうか。話し合ってみましょう。
	【指導のポイント】 一生懸命やっていることが誰かのせいでうまくいかなかったら、誰でも、相手を責める気持ちを持つことがあることを押さえたい。しかし、だからと言って、相手を責め、相手を傷つけてもいいという考えは間違っていること、こうしたシンキングエラーは、相手の気持ちを考えないときに起こりやすいことを、思い出させるようにしたい。
表示タイトル	相手の気持ちも考えてみよう
学ぶ	どんな理由があっても、誰かを傷つけることはいじめになります。誰であっても、相手を傷つける行為は許されません。 ところが、私たちはよくシンキングエラーを起こしてしまいます。 シンキングエラーには、例えば、「自分のことだけを考えているために起こっているシンキングエラー」、「相手のことを考えていないために起こっているシンキングエラー」、「集団として持っている間違った考え方」などがあります。 今回の初めのお話は、「自分の悔しい気持ちばかりを優先して、相手のつらい気持ちを考えていないシンキングエラー」と言えます。 シンキングエラーを起こさないためには、「自分より弱い立場の人の気持ち」を考えることが大切です。もしも自分のシンキングエラーに気づいたら、すぐに直していきましょう。とても勇気のいることですが、自分たちが成長するために大切なことです。 あなた自身、失敗した相手が悪い、責めてもいいというシンキングエラーを起こしていることはありませんか。 もし、そういうことがあつたらすぐに直すことはできますか。シンキングエラーを直すことによって、あなたの具体的な行動は、どのように変わのでしょうか？考えてみましょう。
	【指導のポイント】 例え、悔しい気持ちや相手を責める気持ちを持ったとしても、そこにとどまらず、相手の気持ちや辛さを想像することが、人と関わる上でのとても大切なスキルであることを十分に理解させる。シンキングエラーを正し、具体的な行動の変容までもっていくことが重要である。子どもによっては、学んだことを実際の自分の行動と結びつけることが難しい場合もある。できるだけ具体的な場面で考えてみる（ロールプレイや台詞にすることなど）が有効である。